



住宅資材製造業

株式会社 宮盛

うるおいある住宅づくりに貢献し 誠実と信頼のブランドを確立

住宅資材メーカーとして50年常々新分野へのチャレンジを続ける

会社の前身となる「有限会社 宮盛製材所」は、昭和37年6月に現・会長の宮田盛之助さんが設立。以来50年、移り変わる市場の状況やニーズに合わせて、常に新分野へのチャレンジを続けながら、住宅資材メーカーとして歩んできました。

会社の主力製品も、当初の天井板から集成材へと転換され、現在は構造用集成材の管柱を主力に、日本の木材業界をリードする会社へと躍進されています。

5万5千㎡の敷地内には各工場や倉庫など10の建物が並び



これまで、主力製品である構造用集成材の材料は、その大部分を海外産の木材が占めていたそうです。しかし、住宅需要の増加が見込めない反面、建築材に求められるニーズは多様化し、国産材の需要が増加。そこで、会社の信念でもある「自社の得意分野の拡大」を目指し、他社が行っていない商品開発を進行。国産のスギやカラマツを使った集成材に加え、昨年の夏には国産のスギとカラマツを組み合わせた純国産の集成材も開発し、新たな市場のニーズに応えるべく、国産材に力を入れた製品づくりを進められています。

国産材の活用を目指して新生産ラインを導入予定



企業概要

- 所在地
大川大川字沖面195
- 電話番号
018・875・2151 (代表)
- HPアドレス
<http://www.miyamori.co.jp/>
- 創業
昭和37年 (1962年)
- 従業員数
85人
- 事業内容
集成材、天井板製造・販売
- 事業規模
年商 約35億円



新たなニーズへ対応
会社の力を維持するため
国産材の活用へシフト

構造用集成材の
「管柱」生産量は
全国で1位の水準
全国規模で競争しています



代表取締役社長 宮田 正さん



(上)乾燥させた木材に異常がないか、
接着前に再度チェック
(下)接着剤を使用して木材を貼り合わ
せ、その後プレス機へ

ものづくり用語解説

「集成材」とは？

人工的に乾燥させた木材を、
接着剤などを使い圧力をかけ
て貼り合わせた木材。木造建
築物の建築資材や、木製家具
の材料として使用されている。

五城目町の「ものづくり」を ご紹介します！

広報ごじょうめでは、今月号から町の「ものづくり」にスポットを当てるべく、連載で町内の製造業に携わる企業を紹介していきます。

「町にはこんな企業があったんだ」「この企業ではこんなモノを作っていたんだ」など、皆さんから町の「ものづくり」についてもっと知っていただくための情報を提供できたらと思います。

※次回は、「(株)シック関口」をご紹介します
予定です。

ものづくり ニュース

no.01

国産材の活用を進める「宮盛」の新製品！

純国産ハイブリッド集成材「パワービーム」

「パワービーム」は、高まる国産材への需要に応えるべく、「宮盛」が秋田県立大学木材高度加工研究所との共同研究で開発した、純国産の集成材です。

材料となる木材は、すべて国産のスギとカラマツを使用。地域の豊富で良質なスギと、強度が高いカラマツを組み合わせることで、これまでの製品と変わらない強度を保ちながら15%程度軽量化し、国産材自給率の向上・地域材の活用にも貢献できる製品です。

すでに大手ハウスメーカーからの受注もあり、今後は新しい



代表取締役専務 伊藤信悦さん

生産ラインを導入して生産量を増やしなが
ら、新築住宅用の建築資材として提供されてい
きます。

これが「パワービーム(サンプル)」です

株式会社 宮盛 (☎875・2151)